

事業番号	事務事業名	赤崎14号線整備事業				所管課名	建設部施設整備課	所属長名	中田 智之
	方向性	4	新たな可能性に挑む				係・グループ名	工務第1係	
	重点施策	1	はつかいちの新たな魅力を創造する				根拠法令等	道路法	
	施策方針	2	宮島口地区における新たな観光交流拠点の整備				基本事業		
予算科目	会計	01	款	07	項	02	目	02	事業1 事業2 経・臨
	一般会計		土木費	道路橋りよう費	道路橋りよう新設改良費	002	53	臨	予算上の事業名 道路整備事業(政策)

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画を記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
☐ 単年度繰返し ☒ 期間限定複数年度 (平成23 年度～ 令和7 年度) ☐ 単年度のみ	JR宮島口駅駅舎のネットワークを構築し、地域の生活環境の向上を図る。 整備延長:500m 幅員:10.0m(車道:7.0m、歩道3.0m) ※300m供用済み 令和4年度は、道路改良工事を行った。	宮島口地区の渋滞緩和や地区内の利便性、生活環境向上を図るため、平成23年度より事業に着手した。

2 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

主な活動内容	活動指標(活動の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
設計業務(H23) 用地取得(H27～) 道路工事(H28～)	→ ア 設計進捗率(事業費換算)	%	目標 実績	100 100	100 100	100 100	100 100	100 100
	→ イ 用地取得率(事業費換算)	%	目標 実績	76 74	90 90	94 90	94 90	98 98
	→ ウ 工事進捗率(事業費換算)	%	目標 実績	53 52	61 55	61 60	77 60	82 82
対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(対象の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
道路利用者	→ ア 道路利用者数	-	見込 実績	- -	- -	- -	- -	- -
	→ イ		見込 実績					
	→ ウ		見込 実績					
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	成果指標(意図の達成度)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
道路を完成させ、利用者の安全性の向上を図る。	→ ア 整備率(事業費換算)	%	目標 実績	70 68	82 80	85 81	89 81	93 81
	→ イ		目標 実績					
	→ ウ		目標 実績					
結果(結びつく施策の意図は何か)	施策の成果指標	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
宮島口地区周辺における生活道路の渋滞解消など交通が円滑化し、生活環境が向上する。	→ ア 観光ピーク期(GW・紅葉期)の平均渋滞長(上下線合計値)	km	目標 実績	7.0 5.6	6.8 10.1	6.8 6.3	6.5 6.3	6.3 6.3
	→ イ		目標 実績					

3 事務事業の予算・コスト概要

年度		令和1年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	前年度比	令和5年度(予算)
事業費(A) (円)		205,145,636	60,876,649	199,023,388	18,728,715	-180,294,673	63,102,000
財源内訳	国庫支出金	97,589,000	30,591,000	102,678,000	7,914,000	-94,764,000	32,868,000
	県支出金					0	
	市債	98,100,000	22,500,000	75,500,000	5,800,000	-69,700,000	24,100,000
	その他特財	7,900,000				0	
	一般財源	1,556,636	7,785,649	20,845,388	5,014,715	-15,830,673	6,134,000
業務延べ時間 (時間)		1,708	380	759	71	-688	
人件費(B) (円)		7,824,000	1,637,000	3,333,000	302,000	-3,031,000	0
トータルコスト(A+B)		212,969,636	62,513,649	202,356,388	19,030,715	-183,325,673	63,102,000
主な支出項目			令和4年度決算		備考		
委託料			484,000 円				
工事請負費			18,003,800 円		令和3年度→令和4年度 繰越額 18,003,800円 令和4年度→令和5年度 繰越額 50,502,000円		
補償費			240,915 円				
			円				

事業番号	事務事業名	赤崎14号線整備事業	所管課名	建設部施設整備課
------	-------	------------	------	----------

4 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか。開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか。	② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか。
GWや観光シーズンに発生する宮島口周辺の国道2号の渋滞解消に寄与することから、整備要望が高まっている。	交付金のパッケージ移行等有利な財源の確保を行った。	宮島口周辺の渋滞解消や安全な通学路確保のため、早期完成の要望が強い。

5 事業評価(令和 4 年度決算の評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性(この事務事業の目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 結びついている	理由 説明	第6次総合計画における「宮島口地区における新たな観光交流拠点の整備」として施策方針に位置付けられており、安全性、利便性の向上に貢献している。
	②市が関与する妥当性(この事業は市が行わなければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せることはできないか。)		
有効性 評価	☐ 見直し余地がある ☒ 妥当である	理由 説明	道路管理者である市が実施すべき事業であり適切である。
	③対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 適切である	理由 説明	当路線の整備により、GWや観光シーズンに発生する宮島口周辺の国道2号の渋滞解消に寄与することから、早期に整備を進める必要がある。
効率性 評価	④成果の向上余地(成果向上の余地はないか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)		
	☐ 向上余地がある ☒ 目標水準に達している	理由 説明	早期の事業完了により、成果の向上が図られる。
	⑤廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は。目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか。)		
公平性 評価	☐ 影響がない ☒ 影響がある	理由 説明	宮島口周辺の渋滞解消や安全・安心な通学路の整備を図るにはこの事業以外ない。
	⑥類似事業との統合や連携による改善余地(類似事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)		
	☐ 改善余地がある ☒ 改善余地がない	理由 説明	事前の交通量調査など調査を行い必要最低限な道路構造で適切に設計しており、改善の余地はない。
公平性 評価	⑦事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	事業は適切であり、コスト縮減の余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)		
公平性 評価	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	必要最小限の人員により、事務を行っており削減の余地はない。
	⑨受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である	理由 説明	宮島口地区の主要課題である交通円滑化のために必要な事業であり、受益の機会は公平・公正である。

6 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果		②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直しの余地有り	宮島口地区における新たな観光交流拠点の整備として施策方針に位置付けられた目的妥当性のある事業である。 東側1工区300mの供用開始を行っており、西側2工区の事業促進を図っている。																							
B 有効性	☒ 適切 ☐ 改善の余地有り																								
C 効率性	☒ 適切 ☐ 改善の余地有り																								
D 公平性	☒ 適切 ☐ 見直しの余地有り																								
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④改革改善案による成果・コストの期待効果																							
☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 目的再設定 ☐ 改善 ☐ 休止・廃止 ☐ 完了	今後の改革改善案 宮島口周辺の渋滞解消及び安全・安心な通学確保の観点からも早期に供用開始をする必要がある。		<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="2">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th rowspan="2"></th><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table> (廃止・休止、完了の場合は記入不要)			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
	⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題																								
交付金等の財源確保のため、国や県への働きかけが必要である。																									

事業番号	事務事業名		宮島口地区まちづくり推進事業					所管課名		建設部宮島口みなとまちづくり推進課		所属長名	桑垣 千春		
	方向性	4	新たな可能性に挑む					係・グループ名		事業推進係					
	重点施策	1	はつかいちの新たな魅力を創造する					根拠法令等		宮島口地区まちづくり「グランドデザイン・整備計画」					
	施策方針	2	宮島口地区における新たな観光交流拠点の整備					基本事業							
	会計	01	款	07	項	04	目	01	事業1	事業2	経・臨	予算上の事業名			
予算科目	一般会計		土木費		都市計画費		都市計画総務費		005	53	臨	宮島口地区整備事業(政策)			

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画を記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
☐ 単年度繰返し ☒ 期間限定複数年度 (平成30 年度～ 令和5 年度) ☐ 単年度のみ	令和2年春に供用開始した宮島口旅客ターミナルを拠点に、地区の賑わい創出や宮島口のエリアマネジメントを推進するため、引き続き宮島口みらい協議会の運営や景観形成の支援等を行う。将来的には地元で賑わいを創出ができることを目指す。	「第6次廿日市市総合計画」等において、宮島口地区は観光交流拠点地区として位置づけられており、宮島口旅客ターミナルを拠点に、地区の賑わい創出やエリアマネジメントの推進を図るため。

2 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

主な活動内容	活動指標(活動の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
宮島口地区における新たな賑わい創出や景観形成【委託】 ・イベント開催 ・景観形成(植樹柵、プランター設置等) ・エリアマネジメント(勉強会開催等)	→ ア 賑わい創出業務	式	目標 実績	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1
	→ イ 景観促進業務	式	目標 実績	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1
	→ ウ エリアマネジメントの推進業務	式	目標 実績	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1
対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(対象の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
観光客、地域住民、宮島口みらい協議会	→ ア 宮島来島者数	百万人	見込 実績	498 182	499 196	500 345	501 345	502 345
	→ イ 宮島口みらい協議会(構成団体数)	団体	見込 実績	— 32	増加 32	増加 40	増加 40	増加 40
	→ ウ		見込 実績					
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	成果指標(意図の達成度)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
おもてなしの心を育むことや観光資源の魅力アップなど観光振興	→ ア まちづくりに関する満足度の向上	点	目標 実績	3.10 3.21	3.17 3.09	3.25 3.14	3.32 3.14	3.39 3.14
	→ イ		目標 実績					
	→ ウ		目標 実績					
結果(結びつく施策の意図は何か)	施策の成果指標	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
賑わいが創出される	→ ア 宮島口地区開催イベント参加人数	人	目標 実績	3,900 5,957	5,000 54,546	15,000 81,977	20,000 81,977	23,000 81,977
	→ イ		目標 実績					

3 事務事業の予算・コスト概要

年度		令和1年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	前年度比	令和5年度(予算)
事業費(A) (円)		10,129,900	14,951,200	10,831,700	11,055,000	223,300	7,300,000
財源内訳	国庫支出金				800,000	800,000	800,000
	県支出金	3,930,000	4,000,000	4,000,000	3,000,000	-1,000,000	
	市 債					0	
	その他特財					0	
	一般財源	6,199,900	10,951,200	6,831,700	7,255,000	423,300	6,500,000
業務延べ時間 (時間)		949	949	949	949	0	
人件費(B) (円)		4,347,000	4,092,000	4,167,000	4,048,000	-119,000	0
トータルコスト(A+B)		14,476,900	19,043,200	14,998,700	15,103,000	104,300	7,300,000
主な支出項目			令和4年度決算		備考		
宮島口地区内景観促進業務委託料			990,000 円				
宮島口地区エリアマネジメント推進業務委託料			4,620,000 円				
宮島口地区港湾施設周辺賑わい創出業務等委託料			5,445,000 円				
			円				

事業番号	事務事業名	宮島口地区まちづくり推進事業	所管課名	建設部宮島口みなとまちづくり推進課
------	-------	----------------	------	-------------------

4 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか。開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか。	② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか。
R2.2月に宮島口旅客ターミナルを供用開始、R3年度には観光案内所外付加機能部を供用開始したものの、コロナ禍により宮島への観光客が激減(約6割)した。観光客の回復に伴う宮島地区内外の賑わい創出・回遊性が期待される。	これまで市が中心となり新たな賑わい創出・景観形成を図ってきたが、R2.3月に組織化された「宮島口みらい協議会」を基に地域が主体となり取り組んでいけるよう、引き続き自立化を目指した支援を行う。	宮島口地区の住民として、宮島口を豊かに育み賑わいをつくり人が笑顔で行き交うまちづくりを行政とともに創り次世代に伝え継ぎたい。 また、宮島観光客の早期回復と共に、宮島口地区の回遊人口増加を望む声が多く寄せられている。

5 事業評価(令和 4 年度決算の評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 結びついている	理由 説明	第6次廿日市市総合計画等に合致するものである。
	② 市が関与する妥当性(この事業は市が行わなければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せるとはできないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 妥当である	理由 説明	将来的には地域主体での賑わい創出を目指す、現時点では地域主体での運営体制の構築、支援に向けて市が関与することが必要な状況である。
	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 適切である	理由 説明	適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)		
	☐ 向上余地がある ☒ 目標水準に達している	理由 説明	「新たな賑わい創出」と「持続的なまちづくり」に向け、地域が主体となって「宮島口みらい協議会」を設立しており、成果は得られている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は。目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか。)		
	☐ 影響がない ☒ 影響がある	理由 説明	地域としての、まちづくりの気運が低下する恐れがある。
	⑥ 類似事業との統合や連携による改善余地(類似事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)		
	☐ 改善余地がある ☒ 改善余地がない	理由 説明	宮島口エリアマネジメントとして、広島県や市各部署等とも連携し推進している。 将来的には建設部でなく、地域・観光等に関わる部署による取組が望ましい。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)		
	☒ 削減余地がある ☐ 削減余地がない	理由 説明	「宮島口みらい協議会」と協議・調整しながら、協議会主体による歳入確保(協議会イベント開催時のテナント料、補助金など)に努める事で事業費の削減を目指す。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	適正である。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である	理由 説明	まちづくりに必要な費用を算出し業務設計を行っており適正である。

6 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果			②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直しの余地有り	「第6次廿日市市総合計画」等に基づき、「新たな賑わい創出」と「持続的なまちづくり」に向け、地域が主体となって事業を進めている。																							
B 有効性	☒ 適切	☐ 改善の余地有り																								
C 効率性	☐ 適切	☒ 改善の余地有り																								
D 公平性	☒ 適切	☐ 見直しの余地有り																								
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			④改革改善案による成果・コストの期待効果																							
☐ 拡充 ☐ 現状維持 ☐ 目的再設定 ☒ 改善 ☐ 休止・廃止 ☐ 完了		今後の改革改善案 地域が主体となる「宮島口みらい協議会」を中心とした、「新たな賑わい創出」と「持続的なまちづくり」等を推進していくための財源確保。		<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持				低下			
		コスト																								
		削減	維持			増加																				
成果	向上	○																								
	維持																									
	低下																									
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題																										
「宮島口みらい協議会」が活動するための財源確保や活動場所確保に伴う各関係機関等との調整。			(廃止・休止、完了の場合は記入不要)																							

事業番号		事務事業名						赤崎3号線整備事業				所管課名		建設部宮島口みなとまちづくり推進課		所属長名		桑垣 千春		
	方向性	4		新たな可能性に挑む						係・グループ名		事業推進係								
	重点施策	1		はつかいちの新たな魅力を創造する						根拠法令等		合併建設計画、宮島口地区まちづくり「グランドデザイン・整備計画」								
	施策方針	2		宮島口地区における新たな観光交流拠点の整備						基本事業										
予算科目	会計	01		款		07		項		04		目		01		事業1	事業2	経・臨	予算上の事業名	
	一般会計			土木費				都市計画費				都市計画総務費		005		54	臨	宮島口地区整備事業(政策)		

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画に記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
☐ 単年度繰返し ☒ 期間限定複数年度 (平成27 年度～ 令和8 年度) ☐ 単年度のみ	宮島観光交通と通過交通の円滑な処理と快適な歩行者空間を形成するため、広島県と連携して、アクセス道路(赤崎3号線)整備を推進する。 平成27年度 詳細設計 平成28年度 用地測量 平成29年度～令和4年度 用地買収・建物補償等 令和4年度～令和8年度 道路整備	宮島口地区まちづくりグランドデザイン等に基づき、交通円滑化を図るため、渋滞発生要因となる「ネットワークの不備によるアクセス不良」や「踏切のボトルネック」等の滞留解消対策として、広電駅舎・軌道移設や国道4枝化を含むアクセス道路(市道赤崎3号線)整備を推進する。

2 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

主な活動内容	活動指標(活動の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
→ アクセス道路(市道赤崎3号線)の整備、設計、調査、用地補償等	→ ア 整備、設計、調査、用地補償等	式	目標 実績	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1
	→ イ		目標 実績					
	→ ウ		目標 実績					
対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(対象の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
→ 道路利用者	→ ア 道路利用者	人	見込 実績	— —	— —	— —	— —	— —
	→ イ		見込 実績					
	→ ウ		見込 実績					
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	成果指標(意図の達成度)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
→ 宮島口地区における交通円滑化	→ ア 市道赤崎3号線の整備率	%	目標 実績	50 65	70 73	92 93	98 98	98 98
	→ イ		目標 実績					
	→ ウ		目標 実績					
結果(結びつく施策の意図は何か)	施策の成果指標	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
→ 宮島口周辺における生活道路の渋滞解消など交通が円滑化し、生活環境が向上する	→ ア 観光ピーク期(GW・紅葉期)の平均渋滞長(上下線合計値)	km	目標 実績	7.0 5.6	6.8 10.1	6.8 6.3	6.5 6.5	6.3 6.3
	→ イ		目標 実績					

3 事務事業の予算・コスト概要

年度		令和1年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	前年度比	令和5年度(予算)
事業費(A) (円)		266,000,000	1,272,284,000	408,600,000	839,948,377	431,348,377	259,286,000
財源内訳	国庫支出金	143,000,000	684,136,000	198,000,000	429,256,630	231,256,630	122,731,000
	県支出金					0	
	市債	110,700,000	552,900,000	170,400,000	363,100,000	192,700,000	112,100,000
	その他特財					0	
	一般財源	12,300,000	35,248,000	40,200,000	47,591,747	7,391,747	24,455,000
業務延べ時間 (時間)		1,898	1,898	1,898	2,467	569	
人件費(B) (円)		8,693,000	8,184,000	8,333,000	10,525,000	2,192,000	0
トータルコスト(A+B)		274,693,000	1,280,468,000	416,933,000	850,473,377	433,540,377	259,286,000
主な支出項目			令和4年度(決算)		備考		
市道赤崎3号線整備事業業務委託料			839,948,377 円				

4 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか。開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか。	② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか。
R2.2月に宮島口旅客ターミナルを供用開始、R3年度には観光案内所外付加機能部を供用開始したものの、コロナ禍により宮島への観光客が激減(約6割)した。観光客の回復に伴う宮島地区内外の賑わい創出・回遊性が期待される。	国道2号の観光行楽車による渋滞発生要因である、「ネットワークの不備によるアクセス不良」や「踏切等のボトルネック」等を解決するため、「ネットワークの構築」、「誘導ルートの検討」、「ルート上のボトルネック解消」を目的に段階的な整備方針(中期計画)として、観光行楽車対策(国道への滞留を排除)となるアクセス道路整備を推進する。	地元より、行楽シーズンには駐車待ちの車両や観光バス等により交通渋滞が発生し、国道2号や生活道路まで影響が及ぶ。 宮島観光交通と通過交通の円滑な処理と快適な歩行空間の形成を進めて欲しい。

5 事業評価(令和 4 年度決算の評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 結びついている	理由 説明	「宮島口地区まちづくりグランドデザイン」等に合致するものである。
	② 市が関与する妥当性(この事業は市が行わなければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せすることはできないか。)		
有効性 評価	☐ 見直し余地がある ☒ 妥当である	理由 説明	公共施設として、市が施工するものである。
	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 適切である	理由 説明	適切である。
効率性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)		
	☐ 向上余地がある ☒ 目標水準に達している	理由 説明	委託先である広島県と協議・調整しながら事業を進めており、成果を出している。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は。目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか。)		
公平性 評価	☐ 影響がない ☒ 影響がある	理由 説明	「宮島口地区まちづくり整備計画」等に影響が出る。
	⑥ 類似事業との統合や連携による改善余地(類似事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)		
	☐ 改善余地がある ☒ 改善余地がない	理由 説明	市道赤崎3号線は県港湾道路と重複しており、広島県に委託することで事業の促進等を図っている。
公平性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	委託先である広島県と協議・調整をしながら、適正な事業費を確認している。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)		
公平性 評価	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	適正である。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である	理由 説明	委託先である広島県と協議・調整等しながら、適正に事業を行っている。

6 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果			②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性☒ 適切☐ 見直しの余地有り B 有効性☒ 適切☐ 改善の余地有り C 効率性☒ 適切☐ 改善の余地有り D 公平性☒ 適切☐ 見直しの余地有り			「宮島口地区まちづくり整備計画」等に基づき、順調に進んでいる。																							
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			④改革改善案による成果・コストの期待効果																							
☐ 拡充☒ 現状維持 ☐ 目的再設定☐ 改善 ☐ 休止・廃止☐ 完了		今後の改革改善案 委託先である広島県と協議・調整しながら、早期完成及びコスト削減を目指す。		<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (廃止・休止、完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																								
		削減	維持			増加																				
成果	向上																									
	維持		○																							
	低下																									
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題																										
国道2号や県道厳島公園線、広電駅舎・軌道移設等に関わる各関係機関等との調整。																										

事業番号		事務事業名						宮島口地区港湾施設整備事業負担金				所管課名		建設部宮島口みなとまちづくり推進課		所属長名		桑垣 千春		
	方向性	4		新たな可能性に挑む						係・グループ名		事業推進係								
	重点施策	1		はつかいちの新たな魅力を創造する						根拠法令等		合併建設計画、宮島口地区まちづくり「グランドデザイン・整備計画」、広島県建設事業負担金条例								
	施策方針	2		宮島口地区における新たな観光交流拠点の整備						基本事業										
予算科目	会計	01		款		07		4		04		1		01		事業1	事業2	経・臨	予算上の事業名	
	一般会計			土木費				都市計画費				都市計画総務費		005		53	臨	宮島口地区整備事業(政策)		

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画を記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
☐ 単年度繰返し ☒ 期間限定複数年度 (平成24 年度～ 令和8 年度) ☐ 単年度のみ	宮島の玄関口としてふさわしい施設として、広島県が実施する宮島口地区の港湾施設整備費用の一部を負担する。	「宮島口地区まちづくり整備計画」等に基づく、広島県による港湾施設等の整備にあたり、事業者である広島県に対し「広島県建設事業負担金条例」に基づいた負担が必要なため。

2 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

主な活動内容	活動指標(活動の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
県港湾施設整備 (宮島口地区整備事業)	→ ア 大栈橋整備	%	目標 実績	100 100	— —	— —	— —	— —
	→ イ アクセス道路整備	%	目標 実績	50 65	70 73	92 93	98 —	98 —
	→ ウ 護岸工事(宮島競艇隅角部)	%	目標 実績	80 80	100 100	— —	— —	— —
対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(対象の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
県港湾施設 (大栈橋、アクセス道路、護岸) 広島県	→ ア 県港湾施設	式	見込 実績	1 1	1 1	1 1	1 —	1 —
	→ イ 県港湾整備事業負担金	式	見込 実績	1 1	1 1	1 1	1 —	1 —
	→ ウ		見込 実績	— —	— —	— —	— —	— —
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	成果指標(意図の達成度)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
宮島口の玄関口としてふさわしい施設 が整備される	→ ア 全体工事進捗状況	—	目標 実績	継続 継続	継続 継続	継続 継続	継続 —	継続 —
	→ イ		目標 実績	— —	— —	— —	— —	— —
	→ ウ		目標 実績	— —	— —	— —	— —	— —
結果(結びつく施策の意図は何か)	施策の成果指標	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
①宮島口旅客ターミナル等を活用し、市内を 回遊する。 ②宮島口地区周辺における生活道路の渋滞 解消など交通が円滑化し、生活環境が向上 する。	→ ア ①宮島口観光案内所の案内件数	件	目標 実績	18,000 21,583	21,600 17,867	25,000 27,731	30,000 —	35,000 —
	→ イ ②観光ピーク期(GW・紅葉期)の平均 渋滞長(上下線合計値)	km	目標 実績	7.0 5.6	6.8 10.1	6.8 6.3	6.5 —	6.3 —

3 事務事業の予算・コスト概要

年度		令和1年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	前年度比	令和5年度(予算)
事業費(A) (円)		932,825,206	463,473,281	197,634,859	325,620,636	127,985,777	393,767,000
財源内訳	国庫支出金					0	
	県支出金					0	
	市 債	886,100,000	245,600,000	64,200,000	214,000,000	149,800,000	294,800,000
	その他特財					0	
	一般財源	46,725,206	217,873,281	133,434,859	111,620,636	-21,814,223	98,967,000
業務延べ時間 (時間)		158	158	949	949	0	
人件費(B) (円)		724,000	682,000	4,166,000	4,048,000	-118,000	0
トータルコスト(A+B)		933,549,206	464,155,281	201,800,859	329,668,636	127,867,777	393,767,000
主な支出項目			令和4年度決算		備考		
港湾建設費負担金			325,620,636	円			
				円			
				円			
				円			

4 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか。開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか。	② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか。
R2.2月に宮島口旅客ターミナルを供用開始、R3年度には観光案内所外付加機能部を供用開始したものの、コロナ禍により宮島への観光客が激減(約6割)した。観光客の回復に伴う宮島地区内外の賑わい創出・回遊性が期待される。	・観光・生活航路の維持・利便性向上 →埋立整備、大栈橋整備 ・旅客ターミナルの機能向上 →旅客ターミナル整備 ・海辺の散歩道、憩いの場の提供 →護岸及び緑地整備 ・円滑な交通誘導→国道2号からのアクセス道路整備	施設利用者より「旅客ターミナル・栈橋の老朽化」、「栈橋に屋根がなく雨天時利用に支障がある」、「待合スペースが狭く移動に支障がある」等の課題・意見あり。行楽シーズンには駐車待ちの車両や観光バス等により交通渋滞が発生し、国道2号まで影響が及ぶ。ランドデザインを基に交通円滑化・生活環境向上・良好な景観形成・賑わい創出を進めて欲しい。

5 事業評価(令和 4 年度決算の評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性(この事務事業の目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 結びついている	理由 説明	第6次廿日市市総合計画等に合致するものである。
	②市が関与する妥当性(この事業は市が行わなければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せるとはできないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 妥当である	理由 説明	県港湾施設整備に伴う「広島県建設事業負担金条例」に基づく事業負担であり、適切である。
有効性 評価	③対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 適切である	理由 説明	適切である。
	④成果の向上余地(成果向上の余地はないか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)		
	☐ 向上余地がある ☒ 目標水準に達している	理由 説明	事業者である広島県と協議・調整しながら、事業を進め成果を出している。
効率性 評価	⑤廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は。目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか。)		
	☐ 影響がない ☒ 影響がある	理由 説明	「宮島口地区まちづくり整備計画」等に影響が出る。
	⑥類似事業との統合や連携による改善余地(類似事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)		
	☐ 改善余地がある ☒ 改善余地がない	理由 説明	県事業であるため。
公平性 評価	⑦事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	事業者である広島県が適正に事業費を算出し、負担金を求めている。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	適正である。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である	理由 説明	「広島県建設事業負担金条例」を基に、事業者である広島県と調整しながら、費用負担の適正化に努めている。

6 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果		②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠	
A 目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直しの余地有り	「宮島口地区まちづくり整備計画」等に基づき、順調に進んでいる。	
B 有効性	☒ 適切 ☐ 改善の余地有り		
C 効率性	☒ 適切 ☐ 改善の余地有り		
D 公平性	☒ 適切 ☐ 見直しの余地有り		
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④改革改善案による成果・コストの期待効果	
☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 目的再設定 ☐ 改善 ☐ 休止・廃止 ☐ 完了		今後の改革改善案 事業者である広島県と協議・調整しながら、早期完成及びコスト削減を目指す。	
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題		成果 コスト 削減維持増加 向上 維持 低下	
港湾施設整備に伴う各関係機関等との調整。		(廃止・休止、完了の場合は記入不要)	

事業番号	事務事業名	次世代ステーション等整備費補助金				所管課名	建設部宮島口まちなみまちづくり推進課	所属長名	桑垣 千春
	方向性	4	新たな可能性に挑む				係・グループ名	事業推進係	
	重点施策	1	はつかいちの新たな魅力を創造する				根拠法令等	合併建設計画、宮島口地区まちづくり「ランドデザイン・整備計画」、廿日市市移動等円滑化基本構想	
	施策方針	2	宮島口地区における新たな観光交流拠点の整備				基本事業		
予算科目	会計	01	款	07	項	04	目	01	事業1 事業2 経・臨
	一般会計		土木費	都市計画費	都市計画総務費	005	53	臨	予算上の事業名 宮島口地区整備事業(政策)

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画を記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
☐ 単年度繰返し ☒ 期間限定複数年度 (令和2 年度～ 令和4 年度) ☐ 単年度のみ	宮島口地区まちづくり「ランドデザイン」に基づき、広島電鉄線が移設する広電宮島口駅について、宮島口地区に相応しい景観と利便性を備えた施設とし、更なる賑わい創出を図るため、国土交通省及び広島県と協調し、整備費の一部を支援する。 【令和3年度に事業繰越】	「廿日市市移動等円滑化基本構想」において、宮島口地区はバリアフリー化の優先的な推進が特に必要な「重点整備地区」として選定されており、本事業を進める事で、「バリアフリー化」を推進する。

2 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

主な活動内容	活動指標(活動の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
→ 広電宮島口駅におけるバリアフリー化等事業	ア 交通サービス利便向上促進事業	式	目標 実績	1 0	1 0	1 1	— —	— —
	イ バリアフリー化設備等整備事業	式	目標 実績	1 0	1 0	1 1	— —	— —
	ウ		目標 実績					
対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(対象の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
→ 広電宮島口駅(新駅) 観光客、地域住民	ア 広電宮島口駅(新駅)	施設	見込 実績	1 0	1 0	1 1	— —	— —
	イ 宮島来島者数	百万人	見込 実績	498 182	499 196	500 345	501 —	502 —
	ウ		見込 実績					
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	成果指標(意図の達成度)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
→ 駅構内の移動円滑化	ア 駅構内のバリアフリー化率	%	目標 実績	30 0	50 0	100 100	— —	— —
	イ		目標 実績					
	ウ		目標 実績					
結果(結びつく施策の意図は何か)	施策の成果指標	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
→ 宮島口旅客ターミナル等を活用し、市内を回遊する。	ア 宮島口観光案内所の案内件数	件	目標 実績	18,000 21,583	21,600 54,546	25,000 27,731	30,000 —	35,000 —
	イ		目標 実績					

3 事務事業の予算・コスト概要

年度		令和1年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	前年度比	令和5年度(予算)
事業費(A) (円)				35,073,382	5,113,958	-29,959,424	
財源内訳	国庫支出金					0	
	県支出金					0	
	市 債					0	
	その他特財					0	
	一般財源	0	0	35,073,382	5,113,958	-29,959,424	0
業務延べ時間 (時間)				569	569	0	
人件費(B) (円)		0	0	2,499,000	2,428,000	-71,000	0
トータルコスト(A+B)				37,572,382	7,541,958	-30,030,424	
主な支出項目			令和4年度決算		備考		
次世代ステーション等整備費補助金			5,113,958 円				
			円				
			円				
			円				

4 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか変化しているか。開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか。	② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか。
R2.2月に宮島口旅客ターミナルを供用開始、R3年度には観光案内所外付加機能部を供用開始したものの、コロナ禍により宮島への観光客が激減(約6割)した。観光客の回復に伴う宮島地区内外の賑わい創出・回遊性が期待される。	広電宮島口駅における駅空間高度化の整備は、観光交流拠点として観光客の利便性・安全性の向上や地区の回遊性向上、賑わいの創出など、まちづくりに大きく寄与することから、国の事業である「訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業費補助」及び「地域公共交通確保維持改善事業費補助」等の活用に合わせて、県と連携して支援を行う。	施設利用者より、少子高齢化が進んでいる中で、駅施設のバリアフリー化・ホームの安全対策及び高度化や、更なる利便性・快適性の向上を求められている。

5 事業評価(令和 4 年度決算の評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 結びついている	理由 説明	宮島口地区まちづくりグランドデザイン等に合致するものである。
	② 市が関与する妥当性(この事業は市が行わなければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せるとはできないか。)		
有効性 評価	☐ 見直し余地がある ☒ 妥当である	理由 説明	交通施設における観光客・地域住民等の安全性・利便性向上として、市が補助するものである。
	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 適切である	理由 説明	適切である。
効率性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)		
	☐ 向上余地がある ☒ 目標水準に達している	理由 説明	施設管理者で詳細設計等を行い、十分成果が得られるものとなっている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は。目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか。)		
公平性 評価	☐ 影響がない ☒ 影響がある	理由 説明	施設利用者の安全性・利便性低下。
	⑥ 類似事業との統合や連携による改善余地(類似事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)		
	☐ 改善余地がある ☒ 改善余地がない	理由 説明	施設管理者へ補助することで、十分成果が得られるものとなっている。
公平性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	施設管理者で詳細設計等を行い、適正な事業費を算出している。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)		
公平性 評価	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	適正である。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である	理由 説明	施設管理者で詳細設計等を行い、適正な事業費を算出している。

6 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果			② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性☒ 適切☐ 見直しの余地有り B 有効性☒ 適切☐ 改善の余地有り C 効率性☒ 適切☐ 改善の余地有り D 公平性☒ 適切☐ 見直しの余地有り			本補助金の目的である、「駅空間の質的進化を目指し、まちとの一体感があり、全ての利用者にやさしく、分かりやすく、心地よく、ゆとりある次世代ステーションの創造」に向けて整備が完了した。																							
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			④ 改革改善案による成果・コストの期待効果																							
☐ 拡充☐ 現状維持 ☐ 目的再設定☐ 改善 ☐ 休止・廃止☒ 完了		今後の改革改善案		<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (廃止・休止、完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																								
		削減	維持			増加																				
成果	向上																									
	維持																									
	低下																									
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																										

事業番号		事務事業名						宮島口地区渋滞対策事業				所管課名		建設部宮島口みなとまちづくり推進課		所属長名		桑垣 千春					
	方向性	4		新たな可能性に挑む						係・グループ名		事業推進係											
	重点施策	1		はつかいちの新たな魅力を創造する						根拠法令等		合併建設計画、宮島口地区まちづくり「グランドデザイン・整備計画」											
	施策方針	2		宮島口地区における新たな観光交流拠点の整備						基本事業													
予算科目	会計	01		款		07		項		04		目		01		事業1		事業2		経・臨		予算上の事業名	
	一般会計			土木費				都市計画費				都市計画総務費		005		53		臨				宮島口地区整備事業(政策)	

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画に記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
☒ 単年度繰返し ☐ 期間限定複数年度 (年度～ 年度) ☐ 単年度のみ	宮島口地区における秋の行楽シーズンなど混雑期による渋滞を緩和するため、誘導員の配置、誘導看板の設置や駐車場の満車・空車情報を掲載により観光行楽車を駐車場へ誘導・案内し、混雑予想カレンダーの掲載や近隣駐車場の協力によるパーク＆ライドを推進をすることで宮島口地区への自動車流入台数の抑制を行っている。	宮島口地区は「宮島への玄関口」であり、行楽シーズンには慢性的な渋滞が発生する。渋滞解消に向けて、平成21年度及び22年度に宮島口渋滞対策社会実験を実施し、一定の効果を得られたことから、より効果的に渋滞対策を実施するため、平成24年2月に国や県、警察等関係機関で構成する「宮島口交通円滑化協議会」を発足し、渋滞対策を推進している。

2 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

主な活動内容	活動指標(活動の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
宮島口地区渋滞対策業務	→ ア 渋滞対策日数(交通誘導日数)	日	目標 実績	45 39	33 27	25 25	34	34
	→ イ 駐車場満車・空車情報HPアクセス件数	数	目標 実績	20,000 24,793	25,000 27,081	27,000 48,897	30,000	35,000
	→ ウ 国道2号宮島口周辺設置カメラライブ配信閲覧者数	数	目標 実績	— —	— —	84,000 84,529	87,000	90,000
対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(対象の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
道路利用者	→ ア 道路利用者	人	見込 実績	— —	— —	— —	—	—
	→ イ		見込 実績					
	→ ウ		見込 実績					
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	成果指標(意図の達成度)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
観光ピーク期(GW・紅葉期)における宮島口周辺生活道路の渋滞解消	→ ア 観光ピーク期(GW・紅葉期)の平均渋滞長(上下線合計値)	km	目標 実績	7.0 5.6	6.8 10.1	6.8 6.3	6.5	6.3
	→ イ		目標 実績					
	→ ウ		目標 実績					
結果(結びつく施策の意図は何か)	施策の成果指標	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
宮島口周辺における生活道路の渋滞解消など交通が円滑化し、生活環境が向上する	→ ア 観光ピーク期(GW・紅葉期)の平均渋滞長(上下線合計値)	km	目標 実績	7.0 5.6	6.8 10.1	6.8 6.3	6.5	6.3
	→ イ		目標 実績	— —	— —	— —	—	—

3 事務事業の予算・コスト概要

年度	令和1年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	前年度比	令和5年度(予算)
事業費(A) (円)	22,637,917	28,708,900	34,097,800	34,867,800	770,000	36,530,000
財源内訳	国庫支出金				0	
	県支出金				0	
	市債				0	
	その他特財				0	
	一般財源	22,637,917	28,708,900	34,097,800	770,000	36,530,000
業務延べ時間(時間)	1,898	1,898	2,467	2,467	0	
人件費(B) (円)	8,693,000	8,184,000	10,833,000	10,525,000	-308,000	0
トータルコスト(A+B)	31,330,917	36,892,900	44,930,800	45,392,800	462,000	36,530,000
主な支出項目		令和4年度(決算)		備考		
宮島口地区周辺渋滞対策運営補助業務委託料		4,304,300 円				
宮島口周辺渋滞対策等業務委託料		24,382,600 円				
宮島口地区周辺パーク＆ライド誘導等業務委託料		6,180,900 円				

4 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか。開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか。	② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか。
R2.2月に宮島口旅客ターミナルを供用開始、R3年度には観光案内所外付加機能部を供用開始した。またコロナ禍により宮島への観光客が激減(約6割)した。観光客の回復に伴う宮島地区内外の賑わい創出・回遊性が期待される。	平成24年1月から混雑予想カレンダーを作成し、混雑が予想される日をHPで公開しており、毎年混雑期には誘導員配置による効率的な交通誘導、駐車場の満車・空車情報の掲載、高速道路SA・PAにおける案内情報の掲載、パーク&ライドの推進などを行っている。令和4年5月からは国道2号映像カメラのライブ配信を実施している。	行楽シーズンには駐車待ちの車両や観光バス等により交通渋滞が発生し、国道2号や生活道路まで影響が及ぶ。 宮島観光交通と通過交通の円滑な処理と快適な歩行空間の形成を進めて欲しい。

5 事業評価(令和 4 年度決算の評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 結びついている	理由 説明	「宮島口地区まちづくりグランドデザイン」等に合致するものであり、交通円滑化に寄与するものである。
	② 市が関与する妥当性(この事業は市が行わなければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せるとはできないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 妥当である	理由 説明	交通円滑化は市が取り組む必要がある。
	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 適切である	理由 説明	宮島口地区まちづくり「グランドデザイン・整備計画」に基づく、施策(交通円滑化)の一つであり、対象・意図ともに適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)		
	☐ 向上余地がある ☒ 目標水準に達している	理由 説明	周辺地域の渋滞長は緩和されており、目標水準に達している。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は。目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか。)		
	☐ 影響がない ☒ 影響がある	理由 説明	宮島口周辺の渋滞状況が悪化する。
	⑥ 類似事業との統合や連携による改善余地(類似事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)		
	☐ 改善余地がある ☒ 改善余地がない	理由 説明	宮島口交通円滑化協議会等を通じて、道路交通の円滑化対策についての効果検証・検討を進めている。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)		
	☒ 削減余地がある ☐ 削減余地がない	理由 説明	将来的に宮島口整備事業(アクセス道路整備、立体駐車場整備、赤崎14号線整備等)の完成により駐車場へのアクセス向上が図られるため、交通誘導対策日等の削減は可能となる。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	本対策は宮島口交通円滑化協議会を通じた関係機関(国、県、警察)との調整が多く、全てを民間委託する事が困難。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である	理由 説明	宮島口地区の渋滞緩和を推進することで、広く市民の交通の円滑化に資するものであり、一部の受益者に偏っておらず、公平・公正である。

6 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果			②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直しの余地有り	本事業により、行楽シーズン(ゴールデンウィーク、お盆、紅葉時期等)に発生する渋滞状況は緩和しているものの、抜本的な解決には至っていない。 今後もハード対策(アクセス道路整備、立体駐車場整備等)と合わせてソフト事業を進めていく必要がある。																							
B 有効性	☒ 適切	☐ 改善の余地有り																								
C 効率性	☐ 適切	☒ 改善の余地有り																								
D 公平性	☒ 適切	☐ 見直しの余地有り																								
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			④改革改善案による成果・コストの期待効果																							
☐ 拡充 ☐ 現状維持 ☐ 目的再設定 ☒ 改善 ☐ 休止・廃止 ☐ 完了		今後の改革改善案 宮島口整備事業(アクセス道路整備、立体駐車場整備、赤崎14号線整備等)の完成により駐車場へのアクセス向上が図られるため、ハード事業の早期完成を目指し、宮島口交通円滑化協議会等で検討する。	<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○			低下			
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上																									
	維持	○																								
	低下																									
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題																										
交通誘導対策や宮島口整備事業に伴う各関係機関等との調整。			(廃止・休止、完了の場合は記入不要)																							

事業番号	事務事業名		宮島口地区街なみ環境整備事業費補助金				所管課名		建設部都市計画課		所属長名	原田 慎治
	方向性	4	新たな可能性に挑む				係・グループ名		都市計画係			
	重点施策	1	はつかいちの新たな魅力を創造する				根拠法令等		景観条例、宮島口地区景観ガイドライン、宮島口地区まちづくり整備計画			
	施策方針	2	宮島口地区における新たな観光交流拠点の整備				基本事業					
予算科目	会計	01	款	07	項	04	目	01	事業1	事業2	経・臨	予算上の事業名
	一般会計		土木費		都市計画費		都市計画総務費		006	54	臨	景観形成推進事業(政策)

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画を記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
☒ 単年度繰返し ☐ 期間限定複数年度 (年度～ 年度) ☐ 単年度のみ	宮島口地区における良好な景観形成を図るため、景観ガイドラインに定める景観規制基準に基づき、民間の改修工事等を行うものに対する補助支援を実施している。	平成24年2月 廿日市市景観計画策定 平成28年3月 宮島口地区まちづくりグランドデザイン策定 平成31年3月 宮島口地区景観ガイドライン策定

2 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

主な活動内容	活動指標(活動の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
民間改修補助制度周知等	→ ア 制度周知 (ガイドライン策定ワークショップ参加者、説明会等)	人	目標	80	70	60	60	60
			実績	80	40	0		
	→ イ 個別相談対応	人	目標	-	7	10	10	
			実績	5	6	3		
→ ウ 景観セミナー(勉強会等)		回	目標	1	1	1		
			実績	1	1	0		
対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(対象の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
地区内民間事業者 (建築物等の所有者、管理者、土地所有者等)	→ ア 事業者数	件	見込	78	71	70	65	60
			実績	78	75	74		
	→ イ		見込					
			実績					
→ ウ			見込					
			実績					
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	成果指標(意図の達成度)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
景観ガイドラインに適合していない物件を基準に合うように改修等をしてもらい、地区の景観形成を図る。	→ ア 改修等取組み件数	件	目標	15	7	5	5	5
			実績	7	3	1		
	→ イ		目標					
			実績					
→ ウ			目標					
			実績					
結果(結びつく施策の意図は何か)	施策の成果指標	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
・当該地区において、宮島とのつながりを意識した、うるおいと落ち着きのある「和」をイメージした景観形成を推進し、賑わいを創出する ・賑わいが創出される	→ ア 宮島口地区がふさわしい地区景観であるとイメージする市民の割合	%	目標	-	60	90	90	90
			実績	-	70.8	73.3		
	→ イ 宮島口地区開催イベント参加人数	人	目標	3,900	5,000	15,000	20,000	23,000
			実績	5,957	54,546	81,977		

3 事務事業の予算・コスト概要

年度	令和1年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	前年度比	令和5年度(予算)
事業費(A) (円)	2,740,000	9,104,000	1,161,000	1,602,000	441,000	3,000,000
財源内訳	国庫支出金	1,360,000	4,316,000	580,000	801,000	221,000
	県支出金					0
	市債					0
	その他特財					0
	一般財源	1,380,000	4,788,000	581,000	801,000	220,000
業務延べ時間(時間)	100	100	100	100	0	
人件費(B) (円)	458,000	431,000	439,000	426,000	-13,000	0
トータルコスト(A+B)	3,198,000	9,535,000	1,600,000	2,028,000	428,000	3,000,000
主な支出項目		令和4年度(決算)		備考		
宮島口地区街なみ環境整備事業費補助金		1,602,000	円			
			円			
			円			
			円			

事業番号	事務事業名	宮島口地区街なみ環境整備事業費補助金	所管課名	建設部都市計画課
------	-------	--------------------	------	----------

4 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか。開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか。	② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか。
令和2年度からは新型コロナウイルス感染症により、事業者の経営状況が厳しくなっている。 部分的ではあるが、改修を実施したところから、徐々に景観改善が進み、制度も含め地域に浸透しているものと考えている。	対象物件の改修見込みの減少から、予算規模を、800万円(R1、R2年度)→300万円(R3、R4、R5年度)に縮小している。	本事業の取組みに関しては、対象事業者、議会、マスコミ等からも、当該地区について、必要な取組であり、有効な施策として評価されている。 ・新聞報道(R1.12.17中国新聞) ・市議一般質問(R2.3議会)

5 事業評価(令和 4 年度決算の評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 結びついている	理由 説明	宮島口地区における新たな観光交流拠点に向けて、宮島口地区まちづくりグランドデザインの柱の一つとして位置づける「良好な景観形成」の推進としての事業であるため施策方針に結びついている。
	② 市が関与する妥当性(この事業は市が行わなければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せるとはできないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 妥当である	理由 説明	景観行政団体として主体的に景観形成を進めることが必要である。 当該地区は、景観重点地区でもあり一定の支援は必要なものと考えている。
	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 適切である	理由 説明	景観に対する意識醸成や街なみ形成を実現するためには、対象と意図は適切であるとする。
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)		
	☐ 向上余地がある ☒ 目標水準に達している	理由 説明	当該地区には、多くの物件があり、徐々に改修が進んでいる状況にある。当該年度の予算の範囲内では十分に改修等の工事が進んでいるが、改修等を終えていない物件も残っている状況がある。 また、改善に対して消極的な事業者が残っている現状もある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は。目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか。)		
	☐ 影響がない ☒ 影響がある	理由 説明	本事業の廃止及び休止を行うと、民間事業者が全ての費用を負担して改修を行うことになり、現実的には、景観改修が進みにくいものと考えている。
	⑥ 類似事業との統合や連携による改善余地(類似事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)		
	☐ 改善余地がある ☒ 改善余地がない	理由 説明	該当する類似事業がないため、現状の事業体制のまま、周知、相談対応等を充実させることによって、成果向上が見込めると考えている。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	事業費が補助支援額と直結しており、削減はできないと考えている。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	地元まちづくり組織と連携して市が主体的に進めている状況ではあるが、エリアマネジメントが行われるようになれば、景観形成取組みの周知、誘導及び相談対応などの事務が削減可能と考えている。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である	理由 説明	景観形成に取り組む対象者に対する補助であるが、改修事業費の半額程度は自ら負担する必要がある、受益機会・費用負担の公平・公正化は図れていると考える。

6 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果			②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直しの余地有り	景観形成を進めていくためには、景観行政団体である本市が先導していく必要がある。 将来的に景観協定や景観協議会など、民間や地域団体等(エリアマネジメント)に役割を担ってもらう可能性はあるが、そこへ導くにも行政が当面の間は主導する責務があると考え。 本事業は、現行どおり本市が推進すべきであり、継続した取組みが必要と考える。																							
B 有効性	☒ 適切	☐ 改善の余地有り																								
C 効率性	☒ 適切	☐ 改善の余地有り																								
D 公平性	☒ 適切	☐ 見直しの余地有り																								
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			④改革改善案による成果・コストの期待効果																							
☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 目的再設定 ☐ 改善 ☐ 休止・廃止		今後の改革改善案 景観ガイドラインに定める景観形成基準に基づく地区の良好な景観形成に向けて、地域住民や関係者の意識醸成を図る。 また、地区の景観形成の効果をより早期に実現するためには、改修補助だけではなく、地元まちづくり組織との密な連携や、多面的な事業展開を検討し、継続した取組を行う必要がある。		<table border="1"><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (廃止・休止の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上		○																							
	維持																									
	低下																									
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題																										
市民との意識の共有、PR方法、あるいは継続した取組みなどが、今後の展開に重要な要素であると考えている。 組織・人員等の体制を踏まえ、必要最小限で効果を見込み、事業を展開している状況であり、現状下での景観形成の推進には相当の期間を要すると思われる。 施策をより推し進めるためには、景観行政を積極的に推進を担う専属の組織が必要であると考えている。																										

事業番号	事務事業名	宮島口旅客ターミナル施設管理事業				所管課名	建設部維持管理課	所属長名	中村 浩之
	方向性	4	新たな可能性に挑む				係・グループ名	施設管理係	
	重点施策	1	はつかいちの新たな魅力を創造する				根拠法令等	第6次廿日市市総合計画、広島県と廿日市市との間における港湾管理事務の事務委託に関する規約	
	施策方針	2	宮島口地区における新たな観光交流拠点の整備				基本事業		
予算科目	会計	42	款	01	項	01	目	01	事業1 事業2 経・臨
	港湾管理事業特別会計		港湾管理費		港湾管理費		港湾管理費		004 01 経 宮島口港湾管理事業

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画に記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
☒ 単年度繰返し ☐ 期間限定複数年度 (年度～ 年度) ☒ 単年度のみ	宮島口旅客ターミナルの運営管理を行う。(R2.2.29供給開始)	令和2年2月に完成した宮島口旅客ターミナルについて、平成17年12月制定の「広島県と廿日市市との間における港湾管理事務の事務委託に関する規約」、令和2年2月協議の「地方港湾・厳島港に係る港湾管理事務の事務委託範囲等の変更について」に基づき、宮島口旅客ターミナルの運営管理を行う。

2 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

主な活動内容	活動指標(活動の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度見込
宮島口旅客ターミナルの運営管理	→ ア 施設保守管理業務	式	目標 実績	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1
	→ イ 廃棄物収集運搬業務	式	目標 実績	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1
	→ ウ 施設設備点検等業務	式	目標 実績	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1
対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(対象数の推移)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度見込
観光客、地域住民	→ ア 宮島来島者数	万人	見込 実績	497.5 182.3	498.6 195.8	499.7 339.2	500.8 1	501.9 1
	→ イ		見込 実績					
	→ ウ		見込 実績					
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	成果指標(意図の達成度)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度見込
安心・安全に利用できる	→ ア ターミナルの適正な運営管理	-	目標 実績	適正 適正	適正 適正	適正 適正	適正 1	適正 1
	→ イ		目標 実績					
	→ ウ		目標 実績					
結果(どんな上位目的に結びつけるのか)	上位成果指標	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度見込
観光客の市内回遊の促進 宮島口地区における賑わいの創出	→ ア 宮島口観光案内所の案内件数	件	目標 実績	18,000 21,583	21,600 20,824	25,000 27,731	30,000 1	35,000 1
	→ イ 宮島口地区開催イベント参加人数	人	目標 実績	3,900 5,957	5,000 54,546	15,000 81,977	20,000 1	23,000 1

3 事務事業の予算・コスト概要

年度	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	前年度比	令和5年度(予算)
事業費(A) (円)	0	49,511,362	51,928,137	57,614,087	5,685,950	98,179,000
財源内訳	国庫支出金				0	
	県支出金	31,952,958	31,041,907	2,761,262	-28,280,645	9,129,500
	市債				0	
	その他特財	17,558,404	20,886,230	54,852,825	33,966,595	89,049,500
	一般財源	0	0	0	0	0
業務延べ時間 (時間)		960.00	960.00	1,200.00	240.00	
人件費(B) (円)	0	4,331,000	4,396,000	5,174,000	778,000	0
トータルコスト(A+B)		53,842,362	56,324,137	62,788,087	6,463,950	98,179,000
主な支出項目		令和4年度決算		備考		
宮島口旅客ターミナル廃棄物収集運搬業務		158,400 円				
宮島口旅客ターミナル施設保守管理業務		31,366,476 円				
宮島口旅客ターミナル施設整備点検等業務		1,045,000 円				
		円				

事業番号	事務事業名	宮島口旅客ターミナル施設管理事業	所管課名	建設部維持管理課
------	-------	------------------	------	----------

4 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか。開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか。	② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか。
コロナが収束するにつれ、宮島への訪問客の増加している。	ターミナルの維持管理業務を民間提案型入札で実施するなど、コスト削減に務めている。	広島県より、「広島県と廿日市市との間における港湾管理事務の事務委託に関する規約」に基づいた適切な運営管理を求められている。

5 事業評価(令和 4 年度決算の評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 結びついている	理由 説明	宮島口旅客ターミナルの適正な管理は、本市の観光動線の確保に貢献している。
	② 市が関与する妥当性(この事業は市が行わなければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せるとはできないか。)		
有効性 評価	☐ 見直し余地がある ☒ 妥当である	理由 説明	広島県と廿日市市との間における港湾管理事務の事務委託に関する規約に基づく管理であり、業務は入札等で業者選定している。
	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 適切である	理由 説明	ターミナルは適正に管理されており、適切である。
効率性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)		
	☐ 向上余地がある ☒ 目標水準に達している	理由 説明	ターミナルは適正に管理されており、利用者は安心・安全に利用できている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は。目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか。)		
公平性 評価	☐ 影響がない ☒ 影響がある	理由 説明	ターミナル施設利用者へのサービスが著しく低下する。
	⑥ 類似事業との統合や連携による改善余地(類似事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)		
	☐ 改善余地がある ☒ 改善余地がない	理由 説明	ターミナルの管理は固有の業務であり、統合や連携可能な類似事業はない。
公平性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	ターミナルの維持管理業務については、民間提案型入札採用し、事業費の削減に努めている。 ターミナル内は自由な往来が出来る構造となっているため、夜間を含めた警備コストの削減が難しい。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)		
公平性 評価	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	宮島口エリアは整備途中であり、今後新たな管理施設の増加が見込まれる。 適正な管理形態を備えるための関係者との協議・検討に時間を要するため、今後人件費は増加が見込まれる。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である	理由 説明	市で検討した入札方式で落札業者を選定しており、公平・公正である。

6 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果			②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性☒ 適切☐ 見直しの余地有り B 有効性☒ 適切☐ 改善の余地有り C 効率性☒ 適切☐ 改善の余地有り D 公平性☒ 適切☐ 見直しの余地有り			宮島口旅客ターミナルは適正に管理されており、観光動線確保に貢献している。 今後、新たな管理施設が増える見込みであることから、関係者と十分な協議を重ね、適切な管理形態を調整する必要がある。																							
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			④改革改善案による成果・コストの期待効果																							
☐ 拡充☒ 現状維持 ☐ 目的再設定☐ 改善 ☐ 休止・廃止		今後の改革改善案 新たな施設の管理形態を調整しつつ、宮島口ターミナルの適切な運営管理を継続する。		<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (廃止・休止の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																								
		削減	維持			増加																				
成果	向上																									
	維持		○																							
	低下																									
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題																										
宮島口エリア整備の進展に伴い、適正な管理について各関係機関等との調整し、随時見直しを行う。																										